

平成29年度校友会奨学生 最終成果報告会資料

作品が作品として配慮される最初の間としての展示空間とそこにおける作品存在の行方
—ハイデッガー『芸術作品の根源』に基づく 存在論を手掛かりとして—

Exhibition space as the first place where the work is considered as an artwork and the whereabouts of the work at there
— Based on Heidegger's "*Der Ursprung des Kunstwerkes*" ontology as the Clue —

多摩美術大学大学院 博士後期課程 2年

梶谷 令

Ryo Kajitani

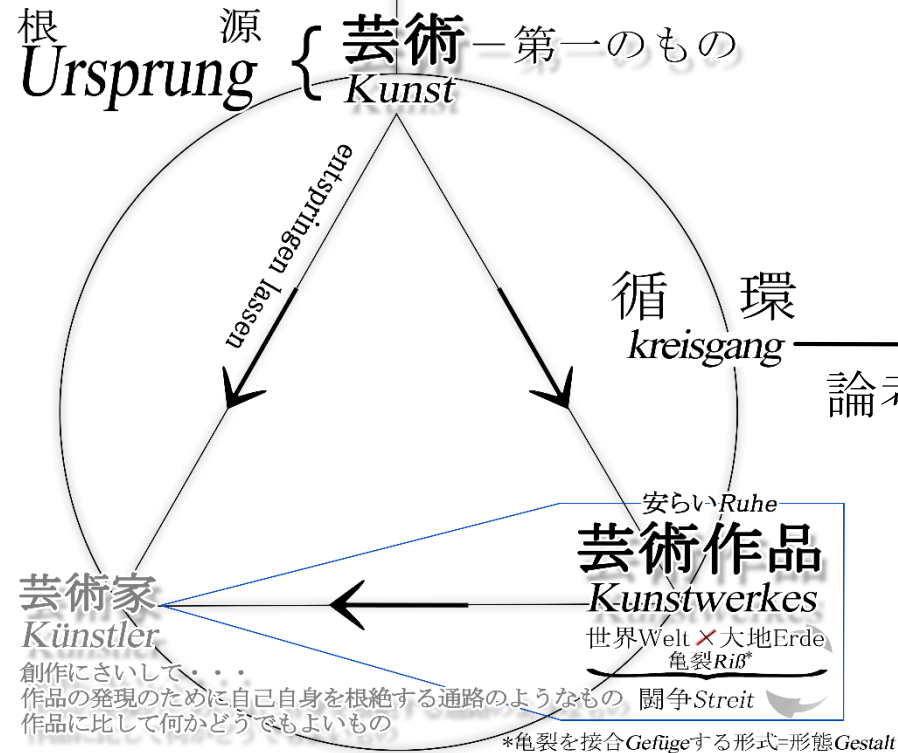


多摩美術大学校友会



－ 応募研究概要 「展示空間における存在論」－

真理がそれ自体を－ 作品の－ 内へと－ 据えること[*das Sich-ins-Werk-Setzen*]



so gewiß ist die Kunst der Ursprung für den Künstler und das Werk

Figure 4-7 『芸術作品の根源』における芸術・芸術家・芸術作品の基礎的布置と相関
(Der Kuenstler ist der Ursprung des Werkes. Das Werk ist der Ursprung des Kuenstlers.)

『芸術作品の根源』における存在論の枠組み*1
(拙著論文p.88より引用)

マルティン・ハイデッガー(Martin Heidegger,1889-1976)

芸術を仮借した存在論(Ontologie)を確立した一人
その代表的テキストが...

『芸術作品の根源』“*Der Ursprung des Kunstwerkes*”(1960)

芸術・芸術家・芸術作品
存在論(的美学)の仮借的フレーム
論考の基礎 →

↑
各フレームに制作者として内部所属。
皮膚感覚で差異を取得可能

↓
作者・作品・鑑賞者
近代美学における「狭義の芸術過程*2」のフレーム

＋
制作・展示実践による制作者特有の概念把握の手続き
(Project Based Research)

*1 Martin Heidegger. “*Der Ursprung des Kunstwerkes*”, (Reclam, 1960)

*1 Martin Heidegger. “*Gesamtausgabe: Holzwege 1935-1946*”, (Verlag Vittorio Klosterman, 2003)

*2 浅沼圭司『制作について 模倣、表現、そして引用』(水声社 2016年) pp.35-36

一 応募研究概要 応用可能な様々の概念モデル(模型)の提案 一

近代美学における鑑賞者像の凡例
(ハイデggerの思想圏においては超克の対象)

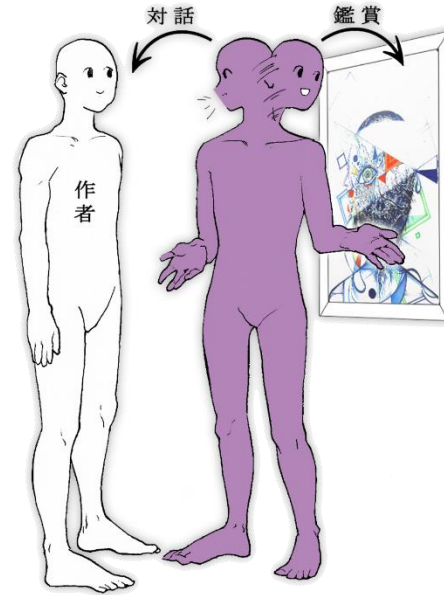
具体



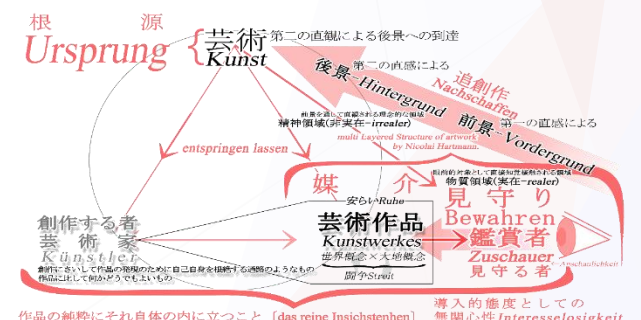
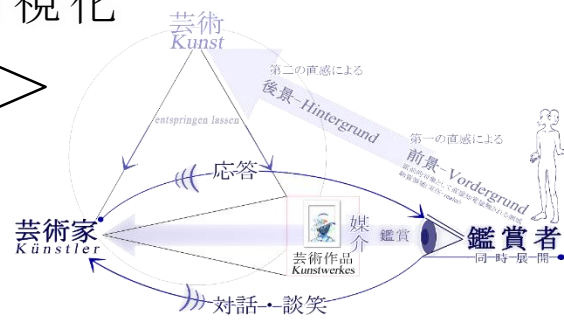
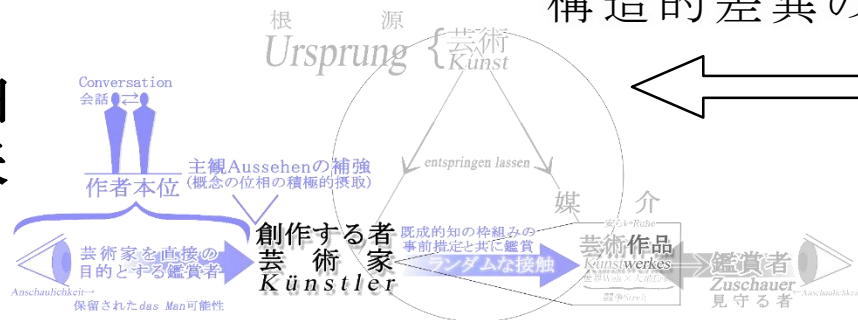
抽象



ハイデgger存在論における鑑賞者像:見守る者たち **die Bewahrenden**



構造的差異の可視化



存在論(的美学)を出発点とする複数の鑑賞者モデルのサンプル
(拙著論文p.121より引用)



- 奨学金による成果 ① 初個展の実施 -

① 「個展」の実施

Supported by The alumni association of Tama Art University



Ryo Kajitani Solo Exhibition
梶谷 令 個展 2017.8.21 (月) - 8.26 (土)

鉛筆素描(ドローイング)

油性木版画

デジタルペイント.etc

GALEIE SIMON

ギャラリー志門

〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-7 新保ビル3F
Tel:03-3541-2511 Fax:03-3541-2512
g-simon@bu.ij4u.or.jp http://g-simon.com/

GALEIE SIMON
3rd FLR. SHINBO BLDG.
6-13-7 GINZA CHUO-KU TOKYO JAPAN 104-0061
+81-3-3541-2511

料金別納
郵便

Ryo Kajitani Solo Exhibition
梶谷 令 個展 2017.8.21 (月) - 8.26 (土)
11:00-19:00(最終日 17:00 迄)



【アクセス】

後援: 多摩美術大学校友会

GALEIE SIMON

ギャラリー志門

〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-7 新保ビル3F
Tel:03-3541-2511 Fax:03-3541-2512
g-simon@bu.ij4u.or.jp http://g-simon.com/

GALEIE SIMON
3rd FLR. SHINBO BLDG.
6-13-7 GINZA CHUO-KU TOKYO JAPAN 104-0061
+81-3-3541-2511

東京外口・日比谷線/銀座駅A3出口 徒歩5分
東京外口・日比谷線、都営地下鉄/東銀座駅A1出口 徒歩2分
JR/有楽町駅 銀座方面出口 徒歩10分



《TRICKSTER》

(D2博士制作-2017) 油性木版画(凸版)

62.5×91.5cm

一般財団法人守谷育英会第25回修学奨励賞



－ 奨学金による成果 ① 初個展の実施－



① 「個展」の実施 2017年 8月21日(月)～26日(土)

第1回ギャラリー志門University Selection企画 Vol. 2 多摩美術大学大学院*
(ギャラリー志門及び、多摩美術大学校友会 助成による*)

〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-7新保ビル3F

2017年 8月21日(月)～26日(土)

11:00～19:00(最終日は17:00まで)

* 画廊使用料28万→14万に減額

展示内訳

＝作品＝

| | |
|------|--|
| 版画 | 8点 (62.5×91.5cm～70×100cmサイズ7点、A4サイズ1点) |
| 鉛筆素描 | 10点 (B1規格サイズ1点、B3規格サイズ8点、B4規格サイズ1点) |
| ジクレー | 1点 (A4規格サイズ1点) |
| 総数 | 19点 |

＝他＝

大学院研究紀要『多摩美術研究第6号』 40冊 (抜き刷りを含む)

↑ 展示会場入口すぐの様子。第19回多摩美術大学校友会小品展2016でチャレンジ賞を頂いた作品を展示。同壁面上に、キプロスのHambis Printmaking Museumで展示した版画1点とカタログを併設。元々寄贈扱いであったが、個展のために作品が帰国して間もなく、初個展でも披露の機会に恵まれた。

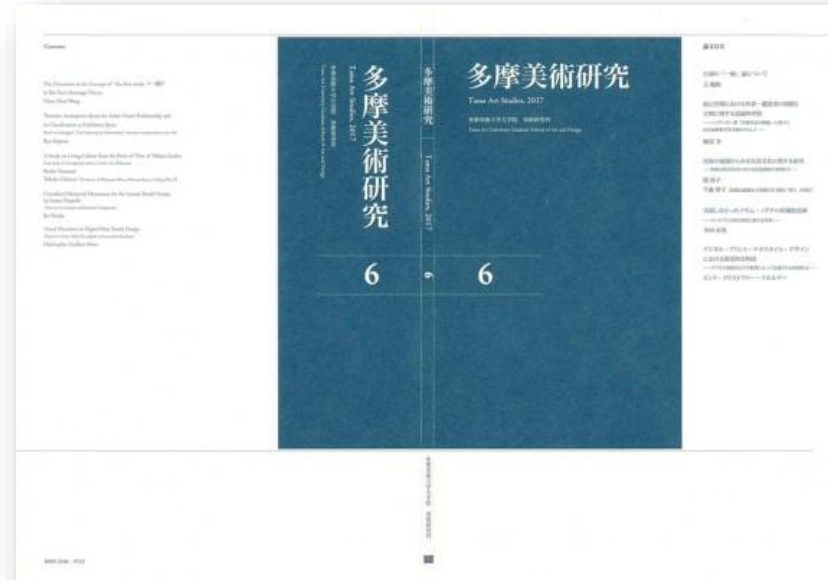


－ 奨学金による成果 ① 初個展の実施－

① 「個展」の実施 2017年 8月21日(月)～26日(土)

－ 展示空間での試み －

- ・論文誌配布による活動の可視化及び議論の促進・課題の共有
- ・QRコードによるwebアクセスの簡素化及び交流の促進



↑ 展示会場入口すぐの様子。第19回多摩美術大学校友会小品展2016でチャレンジ賞受賞作品を展示。併せて、博士課程1本目の査読論文(修士論文を改めたもの)を収録した「多摩美術研究第6号」を会場に配置し、延べ30人以上の来場者にお持ち帰り頂いた。



- WWW上での試み -

融化しきかねません。ではどうすれば、これらを相克させることなく成立させ得るでしょうか。実情を認識しつつ、制作に携わる者として作品・鑑賞者・作者の位置を整理し、再配置を試みます。

以下にあたって、先がハイパーリッガーにおける芸術・芸術家・芸術作品の基本的枠組みを整理します(図1)。この基本的図式は、星敏彦氏によって「芸術と芸術作品と芸術家の三角形(一応意識的にだが意識的に命名し(おそく))」(1999)章はめとしく、既に言及された図式であることに基づき(おそく)(1)。

(Nowadays, it is not uncommon for artists to live in indoor spaces of art galleries where they hold their exhibitions. This article is an attempt to analyze conversations between viewers that result from artists living in art galleries and its impact on the production-viewer-artist theoretical phase, in accordance with and based on Heidegger's book *Der Ursprung des Kunstwerkes*. Although exhibitions provide not only an opportunity for artists to gain social recognition, but also to present their artwork, heated discussions often occur at the venue at the risk of the exhibition being canceled. Given the situation, how can one integrate these circumstances? One can keep in mind that it is not uncommon for artists to live in galleries while participating in the organization of the production-viewer-artist phase and putting this rearrangement to the test.)

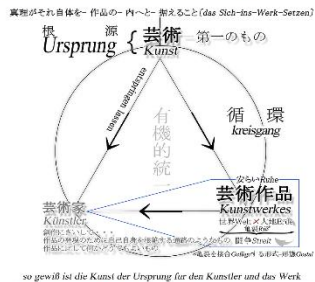


図1 ハイデッガーにおける芸術・芸術家・芸術作品の基本約概念配置とその相関 ※図は簡略図です。

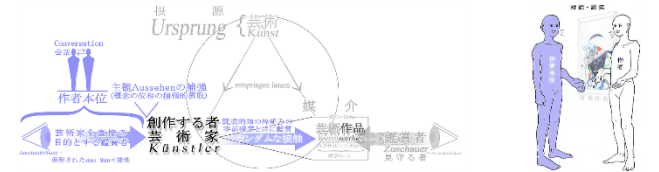
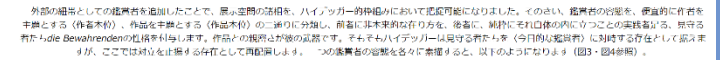
(Der Kuenstler ist der Ursprung des Werkes, Das Werk ist der Ursprung des Kuenstlers.)

頂点に配置する「芸術(創製Ursprung)」から放射状へ向ける2本の矢印は、究極entspringen lassenする根拠共同源環(二)なりち「芸術家Kuenstlar」「芸術作品Kunstwerks」を示す。

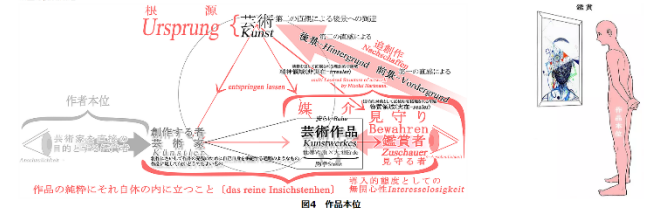
「芸術家」「芸術作品」の本質Wesensの由来Herkunftが「芸術(起源)」である。三つは得たり特有の場域に固定される。外周を循環しながら統一される。

The most symbolic opportunity here is a "personal exhibition", where the artist is independent by himself and at the same time he becomes a viewer, which makes him see the significance of the exhibition. As a creator, I do not doubt the ambivalent progress by stepping over the same fundamental horizon as a viewer. In other words, I believe that by withdrawal from the already completed artwork and by the creator's independent exceptional progress, it will become a guide for bringing a light to the existence origin and striving for the unknown future. The positive isolation is my next step in accepting that.

本個展は、多摩美術大学校友会の助成を受けて実施するものです。
Solo Exhibition was funded by Tama Art University Alumni Association grants.



青で彩色された部分が作者4位。ネガティブな構図をモノクロで示します。表示する者たちに所見せず、作者(芸術家)との対話的存在に徹して(人・物)主体の場面に於いて、
階級関係を維持します。対話後に位置がなされる場合、しばしば芸術作品の(芸術)的価値は放棄され、(作品)審美にのみ没頭します。



作者本位(図3)との比較から、作品本位に連動する有機的連繋構造の規範的差異が視認できます。

以上の2モデルを足掛かりに、画廊を中心とした小規模な展示空間と、そこにおける作品・作者・鑑賞者の4つを巡る影響関係を、幾つかの展示実践（室内・室外/個展・2人展・グループ展）を通じて確認します。

個人サイトでの研究過程・及び成果の発信
(<https://www.ryokajitani.com>)



－ 奨学金による成果 ② 個展以降－

② 展示・研究活動の「見える化 (可視化)」の促進

研究分野

- ・ 芸術学 / 美学・芸術諸学 /
- ・ 芸術学 / 芸術一般 /

学歴

ダウンロード テキストで表示

2016年4月 - 現在 多摩美術大学大学院 博士後期課程
2014年4月 - 2016年3月 多摩美術大学大学院 博士前期課程

受賞

ダウンロード テキストで表示

2017年12月 守谷育英会 第25回修学奨励賞 一般財団法人守谷育英会 第25回修学奨励賞

論文

ダウンロード テキストで表示

展示空間における作者・鑑賞者の相関と分類に関する試論的考察：ハイデッガー著『芸術作品の根源』に基づく存在論解釈学を手掛かりとして

梶谷 令

多摩美術研究 (6) 13-39 2017年6月 [査読有り]

昨今、画廊を初めとする室内空間における展示に、作者が常駐する場合は珍しくありません。本稿は、作者の常駐が作品・鑑賞者・作者に及ぼす影響を、ハイデッガーの著作『芸術作品の根源』を手がかりに、加えて展示実践を通じて確かめ、作者・鑑賞者の位相の存在論的分析を試みるものです。展示は、作品のみならず作者も社会的認知を得る機会であり、例えば対話が積極的に活用されますが、展示空間での対話は、展開の次第では、展示の働きそのものを形骸化させかねません。ではどうすれば、これらを相克させることなく成立させ得る...

Works

ダウンロード テキストで表示

梶谷令 初個展

梶谷 令 芸術活動 2017年8月 - 2017年8月

多摩美術大学校友会の助成を受けて、下記の日程で銀座ギャルリー志門において実施。
2018年8月21日(月)～26日(土)

－ 2018年に入ってから取り組み－

- ① **researchmap**登録による研究成果の発信
<https://researchmap.jp/RyoKajitani/>
researchmap(リサーチマップ)とは...国立情報学研究所、社会共有知研究センターが提供する研究者向けのオンラインサービス
- ② 初個展の成果をまとめたデジタルブックの自費出版
2018年上半期内に実施
- ③ **WWW**上でのプレゼン資料の公開
ワールドワイドウェブ
2018年上半期内に実施



－ 奨学金による成果 ③付随的な取り組み－

③ 展示・研究活動の「見える化 (可視化)」による成果の還元

－ 2018年に入ってから取り組み－

校友会の活動理念を見据え、付随的な取り組みを実施した。
具体的には、本学校友会の第100回理事会議事録において
上田雄三先生により提案された
「校友会奨学生の略歴に「何年度校友会奨学生」と入れてもらう。」
という提案に依拠して、この度入選した「FACE2018損保ジャパン日本興亜美術賞展」のカタログ末尾「入選者略歴」欄に、校友会奨学生である旨を追記頂いた。

- 他
- ・新入生・卒業生への校友会活動の紹介
 - ・カンボジア MirageGalleryCafeでの展示 (3月25日まで実施中)
 - ・チャレンジ賞受賞作品のシンガポール*での再展示 (5月予定)
- * Instinc Singapore Art Gallery



この度の助成に感謝し、今後とも研究に生涯を捧げることを誓います。
ご静聴ありがとうございました。

展示・研究活動や「研究の見える化」に関するご質問・お問い合わせは
itikomirugu@gmail.comまで。

